

氏名	陳 紅 麗
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第1702号
学位授与の日付	平成10年3月25日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学(二)学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Malignant Lymphoma Induction in Rabbits by Oral Inoculation of Crude Virus Fraction Prepared from Ts-B6 Cells (Cynomolgus B-Lymphoblastoid Cells Harboring Epstein-Barr Virus-Related Simian Herpesvirus) (サルB-リンパ芽球株(Ts-B6)由来のEBV関連ヘルペス ウイルスの口腔内投与によるウサギ悪性リンパ腫誘発)
論文審査委員	教授 岡田 茂 教授 山田 雅夫 教授 原田 実根

学位論文内容の要旨

我々はヒトのEBV関連リンパ腫の動物モデルを作製する目的で、サルBリンパ芽球株(Ts-B6)由来のEBV関連ヘルペスウイルスの経口感染により、ウサギ悪性リンパ腫の高率な誘発に成功した。Ts-B6株、EBV産生サルリンパ球株(B95-8)の培養上清(330-400ml)のペレットをウサギに経口投与し、経時的にEBVの抗VCA-IgG, VCA-IgM, EA-DR-IgG抗体と末血におけるEBV関連ウイルスの有無をPCRで検索した。誘発されたウサギ悪性リンパ腫の病理学的検索とEBER-1発現の有無をISH法で検索した。Ts-B6とB95-8の上清ペレット経口投与2日目から末血にEBVを検出と約2週以降抗VCAIgG抗体価上昇を認めた。Ts-B6の経口投与群は(9/11)と高率に42-160日間でウサギリンパ腫の発生をみたが、B95-8の投与群では認めなかった。EBER-1はウサギリンパ腫に種々の程度陽性であった。このEBV関連ウイルスを用いたウサギの経口感染および悪性リンパ腫誘発モデルは、ヒトのEBVの自然な感染およびEBV関連リンパ腫発生の病態解明に有用な動物モデルである。

論文審査結果の要旨

本研究は、ヒトのEBV関連リンパ腫の動物モデルを作製する目的で、サルBリンパ芽球株(Ts-B6)由来のEBV関連ヘルペスウイルスの経口感染実験をウサギに行ったものである。その結果ウサギに高率に悪性リンパ腫を誘発する事に成功した。このEBV関連ウイルスを用いたウサギ経口感染による悪性リンパ腫誘発モデルは、ヒトのEBVの感染およびEBV関連リンパ腫発生の病態解明に有用な動物モデルであると考えられる。

よって本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。